

## 旋律が追いかけるように重なり合っていくおもしろさを味わおう

教材名：「フーガト短調」 (J.S.バッハ 作曲)

本校の育成する資質・能力

知識・技能

思考力・判断力・表現力

主体性・協働性

- 1 日時 令和2年9月2日(水) 15:00～15:50
- 2 学年・学級 2年A組(男子19名 女子17名 計36名)
- 3 場所 音楽室(3階)
- 4 題材について

## (1) 題材観

本題材は、学習指導要領に示された指導事項のうち、第2学年及び第3学年B鑑賞領域の内容である。

本題材では、鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

[共通事項](1)生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形作っている要素

「旋律」「音色」「形式」「テクスチャ(音の重なり)」

鑑賞曲「フーガト短調」は、バロック時代に作曲されたバッハの代表的な作品で、小規模ながら荘厳な雰囲気をもつ名曲である。また、パイプオルガンによる独奏で、4つの声部(ソプラノ・アルト・テノール・バス)の主題が繰り返され、重なり合い発展していく音楽形式(フーガ)である。よって、教会音楽として発展したパイプオルガンの美しい音色や、フーガ形式による多声音楽のおもしろさを味わうことができる楽曲である。また、教会音楽ならではの神聖なる美しい響きが、音楽を形づくっている要素や構造にどのように現れているのかを考えていくことで、曲に対する評価と根拠に生かされ、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる題材である。

## (2) 生徒観

鑑賞の授業に関するアンケートの結果は、以下のとおりである。

質問	割合			
	とても好き	好き	少し苦手	苦手
①鑑賞の授業は好きですか。	11.1%	50.0%	33.3%	5.6%
②曲想と音楽の要素を関連付けて、自分の考えを述べることは得意ですか。	0%	47.2%	41.6%	11.1%
③鑑賞時に、特に意識して聴く音楽の要素は何ですか。	「音色」55.5% 「強弱」19.4% 「速度」19.4% 「旋律」5.6 「テクスチャ」2.8% 「形式」0%			

これらの結果より、鑑賞の授業が好きと肯定的に答えた生徒は 61.1%であった。具体的な理由として、「音楽を聴き、クラスの人の意見など感じたことを知ることができるから。」や、「作曲家がどのような考えや思いをもって作曲したのか考えながら聴くことができるから」などが挙げられた。反対に苦手な生徒の中には、「感じ取ったことを自分の言葉で表現することが難しい」と答えた生徒が多数いた。さらに、曲想と音楽の要素を関連付けて、自分の考えを述べるのが苦手な生徒が、52.7%と過半数を超えている。また、特に意識して聴く音楽の要素上位3つに、「音色」・「強弱」・「速度」が挙げられた。今回の題材として扱う「フーガ短調」では、「旋律」「音色」「形式」「テクスチュア」を重点的に意識して取り扱っていきたいが、「旋律」や「テクスチュア」、「形式」について音楽を深く感じ取ることが難しい生徒が多数いると考えられる。

### (3) 指導観

この題材を通して、まず始めに音楽の要素の「旋律」や「形式」、「テクスチュア」に注目して、4つの声部が重なり合って発展していくフーガ形式のおもしろさを感じ取らせていく。そのために、どの声部が主題を演奏しているのか可視化しながら聴き取っていくことで、音楽の構造をとらえることができる。その時に、パイプオルガンの音色だけでは、どの声部が主題を演奏しているのか聴き取ることが難しいと想定される。手立てとして、4つの声部の楽器の音色を変えた音源で鑑賞し、音楽を形作る要素を意識した鑑賞にしていく。これらを踏まえ、楽曲の魅力をも自分の言葉で具体的に述べるようにさせたい。その際に、作曲家が考えた音楽的工夫を根拠にして、楽曲の魅力をも自分の言葉でまとめさせていく。また、オーケストラによる演奏や、アカペラによる演奏を鑑賞し、多声音楽のおもしろさを様々な視点から感じ取ることができるようにしていく。

### 題材の目標

- 多声音楽によって生み出されるバロック時代特有の音楽に関心をもち、主体的・共働的に鑑賞の学習に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。【学びに向かう人間性】
- パイプオルガンの音色とフーガ形式の音楽から、楽曲がもつ曲想と音楽の構造との関わりを理解している。【知識及び技能】
- 旋律・音色・形式・テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。【思考力・判断力・表現力】

### 本校で育成を目指す資質・能力と評価規準との関わり

資質・能力	本校が育成を目指す資質・能力	本校が育成を目指す資質・能力を身に付けさせるための手立て
知・技	パイプオルガンの音色と、フーガ形式の音楽から、楽曲がもつ曲想と音楽の構造との関わりを理解することができる。	フーガ形式による4つの声部を可視化して、主題や応答が重なり合って展開していく構造を捉えることができるようにする。
思・判・表	自身の言葉で根拠をもって楽曲のよさを評価するなど、音楽的価値を見出すことができる。	主題や応答がどの声部に現れているのか、各声部の楽器の音色を変化させた音源を鑑賞させる。そうすることで、楽曲の全体像をとらえ、バッハの作曲技法について根拠をもとに評価できるようにする。
主・協	主体的に鑑賞の学習に取り組み、バロック時代の音楽に親しんでいく態度を養うと共に、様々な多声音楽の良さを尊重しようとしている。	パイプオルガンによる演奏だけでなく、アカペラ演奏やオーケストラによる演奏など、さまざまな視点から「フーガ短調」を鑑賞していくことで、多声音楽の美しさを味わうことができるようにする。

## 題材の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 学びに向かう力, 人間性等
①パイプオルガンの音色とフーガ形式の音楽から、楽曲がもつ曲想と音楽の構造との関わりを理解している。	①パイプオルガンの音色や、フーガ形式による旋律のテクスチュア(音の重なり)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと、感受したことの関わりについて考えている。 ②根拠を持って批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	①バロック時代の音楽様式に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

## 指導と評価の計画

次	学習内容	評価
		評価規準(評価方法) 【評価規準, 資質・能力】
1	パイプオルガンの豊かな音色を感じ取り、バロック時代の音楽様式や作曲家について理解する。	パイプオルガンの音色とフーガ形式の音楽から、楽曲がもつ曲想と音楽の構造との関わりを理解している。 (ワークシート, 振り返りシート)【ア, 知】
2 (本時)	声部ごとに主題を聴きとり、作曲家が工夫したことや、フーガの魅力について考える。(本時)	・パイプオルガンの音色や、フーガ形式による旋律のテクスチュア(音の重なり)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと、感受したことの関わりについて考えている。 (ワークシート, 発表, 振り返りシート)【イ-①, 思】
3	様々な演奏形態によるフーガ形式の音楽を鑑賞し、多声音楽の魅力について根拠を持って自分の言葉でまとめる。	・根拠を持って批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 (ワークシート, 振り返りシート)【イ-②, 思】  ・バロック時代の音楽様式に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(ワークシート, 振り返りシート)【ウ, 学】

## 本時の学習

### (1) 本時の目標

声部ごとに主題を聴きとり、作曲家が工夫したことや、フーガの魅力について考える。

(思考力・判断力・表現力)

### (2) 観点別評価規準

B	A	C
主題や応答がどの声部に現れたか聴きとることができる。	主題や応答がどの声部に現れたか聴きとことができ、バッハの作曲技法についても根拠を持って考えることができる。	フーガ形式について理解できる。

### (3) 準備物 ワークシート, 振り返りシート, 電子黒板

(4) 学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて	評価規準 (評価方法)
導入	① 曲全体を通して主題が何回演奏されるか聴き取る。  ② めあての提示	◇音楽形式「フーガ」とは何か，“主題”という言葉を用いて説明させ、音楽を通して聴き取らせる。(※主題は10回出てくる)  ◇「どの声部が主題を演奏しているのか・・・」 「主題を繰り返す以外に、どのような音楽的工夫が隠されているのか・・・」  生徒の疑問が湧いてくるよう、思考意欲を高めていく。	
本時のめあて 声部ごとに主題を聴きとり、作曲家の工夫やフーガの魅力について考えて書くことができる。			
展開①	③ コンピューターによる各声部の音色を変えた演奏を聴き、主題が <u>どの声部に現れているか聴き取る。</u> (個人思考)	◇各声部の楽器の音色を確認する。 { ソプラノ：鉄琴 アルト：ハーモニカ テノール：箏 バス：チューバ } ◇主題がどの声部に現れているのか可視化できるように、表を作成する。	
展開②	④ ③をもとに、パイプオルガンの演奏を再び鑑賞し、作曲家が工夫したことや、フーガの魅力についてグループで考える。(集団思考)  ⑤ 全体で交流する。	◆曲を第1部から第3部に区切って考えさせていく。 ◇・主題の現れ方に工夫がないか ・音の高低や調が変わることで、曲想がどのように変化するか ・音楽的工夫が、曲想とどのように関わっているのか を考える視点とする。	パイプオルガンの音色や、フーガ形式による旋律のテクスチュア(音の重なり)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと、感受したことの関わりについて考えている。 (ワークシート、発表)
振り返り	⑥ まとめと振り返りを行う。		振り返りシート  ○生徒の振り返り例 ・第1部では主題の現れ方がソプラノから順番になっていること、第2部では短調から長調に転調していること、第3部は低音のバスパートが力強く主題を演奏していることを聴き取ることができた。(フーガの魅力)  ・教会音楽ならではの神に助けを求める気持ちや、天まで祈りを届けている気持ちを音楽で表現するために、主題を繰り返すだけでなく、音の高低や調を変化させていることを感じ取ることができた。(作曲家の工夫)

